

# やまと 民俗への招待

鹿谷 熱

新しいウイルスが、目新しい言葉をも流行させている。最初は「新型コロナウイルス」だった。王冠の形をしたウイルスだという。

対岸の火事が我が身に降りかかるような状況になり、次が「パンデミック」だった。すべての人々に関わることから、病気の「世界的流行」をさす。その後、オーバーシュート、クラスター、ロックダウンなどのカタカナ語が、日ごと新聞にふれてきた。爆発的感染拡大、小規模患者集団、都市封鎖だという。他にアトブレイクやサイレン・ト・キャリアなどもある。なじみの薄いこうした

新しいウイルス

専門用語が次々に国民に

近鉄奈良駅近くの商店街をマスク姿で足早に通り過ぎる人々＝奈良市餅殿町で3日午後1時ごろ

発せられ、なぜカタカナばかりかと疑問を投げかける人もいれば、日本語での適切な表現が難しいからとする関係者の弁もあるようだ。わが国では、言葉の言い換えで刺激を減らそうとする癖があると指摘する識者もいる。

社会の中での言葉の使い方を民俗的に考えてみると、「隠語」が思い浮かぶ。私たちの社会では、特定の社会集団や仲間で通じるさまざまな「隠語」や「符牒」を持つてい



# 新型コロナ 表現、平明に

語を使いこなすことで、その集団に溶け込み、一員と遇されるわけだ。

奈良市内にあった有名百貨店で、商品を運搬する車付きの大きな箱の名

前を尋ねたことがある。ボテグルマだという。竹籠に和紙を貼り、柿渋などを塗った道具をボテコ

ドといふ。それが、その宗教空間では、わざとヤなどと呼んでいたことが分かる。山中修行といふ。国民すべてに関わる

五條市大塔町惣谷に伝わる「鐘引狂言」で、最後に浮気がばれる場面があり、「豆盗つ人」という台詞が出てくる。この言葉は「豆泥棒」として今も警察で生きている。

柳田国男の弟子で京都に住んでいた平山敏治郎先生が、山伏の隠語を紹介している（「大峯の忌」）。

ボテグルマだという。竹籠に和紙を貼り、柿渋などを塗った道具をボテコドといふ。それが、その宗教空間では、わざとヤなどと呼んでいたことが分かる。山中修行といふ。国民すべてに関わる

ボテグルマだという。竹籠に和紙を貼り、柿渋などを塗った道具をボテコドといふ。それが、その宗教空間では、わざとヤなどと呼んでいたことが分かる。山中修行といふ。国民すべてに関わる